

## Y05b 日本の天文普及活動をどう海外に伝えるか？ - 国際会議 CAP2018 @福岡市に向けて-

縣 秀彦、Lina Canas、山岡 均、蓮尾隆一ほか国立天文台 LOC、鴈野重之（九産大）、大木良一（福岡市）、有高啓一郎（福岡観光コンベンションビューロー）、三村 麻子（福岡市科学館）ほかチーム福岡

IAU の C2 分科会がほぼ 2 年毎に実施している国際会議 Communicating Astronomy with the Public (CAP) が、2018 年 3 月 24-28 日に日本で初めて開催される。この会議「CAP2018」は、2017 年 10 月に開館予定の福岡市科学館を主会場として福岡市にて行われる。CAP は天文学を市民に広く伝えるための実践や研究を情報交換・議論するための会議であり、研究者はもちろん学生や一般市民でも参加できるようオープン化されていることが特徴で、市民向けのイベントも行われる予定。国内からも天文同好会、生涯学習施設、学校教育、広報・報道、アウトリーチなど幅広く天文学に関する科学コミュニケーション (SC) に関心をお持ちの多くの方々の参加を期待している（国内外から 300 名程度の参加者を予定。5 日間通しでの参加のみならず、関心のあるセッションのみに参加することも可能）。

本会議の誘致にあたって、天文学に関する日本の SC 活動の特徴やグローバル化への課題など現状把握を試みた。本発表においては、その考察に基づき SC における国際的な取り組みの中で、日本に期待されていること及び日本が果たすべき役割を指摘する。また、CAP2018 において日本の SC 諸活動をどのように海外からの参加者に伝え、その後の国際協力をどのように進めていくかを提案したい。